

# 赤潮調査事業(毒化モニタリング調査)<sup>※1</sup>

竹内 照文・小久保友義・宇野 悦央<sup>※2</sup>

## 目 的

貝類の毒化状況と毒化原因プランクトンである *Protogonyaulax* 属、*D. fortii* や *D. acuminata* の出現状況について実態を把握し、貝類の毒化機構を解明するとともに、将来の貝毒監視体制の確立を図る。

なお、詳細は「昭和62年度赤潮防止対策事業(毒化モニタリング)報告書」に報告されている。

## 方 法

和歌浦湾(アサリ)、芳養湾(ヒオウギ)、田辺湾(アサリ)、串本浅海漁場(ヒオウギ)、森浦湾(ヒオウギ)でPSP(40回)、DSP(4回)の検査とともに *Protogonyaulax* 属、*Dinophysis* 属の出現状況について調査した。

## 結 果

1. 田辺湾では5月中旬にアサリのPSPが若干上昇したが、規制値を越えることがなかった。また、その他の4水域でも規制値を越えることがなかった。
2. 田辺湾ではアサリのDSPがすべてNDであった。
3. *P. catenella* は田辺湾では $10^5 \text{ cells} \cdot 1^{-1}$ を越えたが、その他の4水域では $10^3 \text{ cells} \cdot 1^{-1}$ 以下で推移し、ほぼ例年並の出現数であった。

---

※1 赤潮調査事業費による。

※2 水産課